美学・藝術論研究会　シンポジウム

美学へ／の挑戦

―アートプラクティスの現場と「公共性」―

アートの現場が社会の随所に出現している。アトリエにこもった美術家のパイプの煙の中から作品が生まれるという図が、しばしば、大都市のエリアやまちや農村や島や工場跡やの随所で多数の人々の参加や協同のもとでアートが出現する図へと大きく変わろうとしている。そこに出現するアート生成の現場は、一人アーティストだけの現場でなく、立場を要する多様な人々が関与する社会的関係性の結集する場であり、アーティストと並ぶ、キュレイター、コーディネイター、クリティークなどなどの人々のアートプラクティスの現場でもある。そしてこの現代のアートプラクティスの現場は、アートと文化の根底を問いなおす現代社会の幾重もの波がうちよせ渦巻く前線である。経営、政策、市民の中の夢や立場の相違やときには対立、等々。その現場にたち、美や芸術の再定義を実践的に示す一連の仕事は、現代社会から授けかけられた美学への挑戦を受けて立ち、新たな美学の挑戦を体現する仕事でもある。

本シンポジウムは、美学研究を踏まえて、アートプロジェクト、アート言説にかかわる編集・翻訳、教育、批評という現代的アート実践の諸現場にかかわる四氏を迎え、それら諸現場を基点とし現代的課題にこたえつつ、<芸術の／と公共性>問題を焦点として現代の美学・芸術論的研究の新たな方向を探ろうとするものである。

2010 年 12 月 18 日（土）

14：00-17：30

場所：首都大学東京　秋葉原サテライトキャンパス（ダイビル１２階）

主催：美学・藝術論研究会

報告	椎原伸博（実践女子大学）	「『新しい公共性』と芸術」
	藤原えりみ（美術評論家）	「パブリックな場とは何か」
	神野真吾（千葉大学）	「自己表現と公共性の間 ーアートプロジェクト、美術教育の立ち位置」
	林　卓行（玉川大学）	「芸術批評とその公共性」
司会	田尻真理子（東京純心女子大学）	
総合司会	長田謙一（首都大学東京）	

近代の美学や芸術理論においては、美や芸術は自律的なものとして理解され、社会的諸価値や社会生活諸領域からの切断を強調する傾向を主流とし、また芸術の歴史はその流れの形成・発展の物語として語られてきた。それは、20 世紀半ば、台頭した全体主義のもとで強調されたプロパガンダとしての芸術の社会的機能に対抗するモダニズムの言説の中でその最も原理的な姿を示した。しかし、そのようなモダニズムの奥底に、芸術の自律性の神話をもプロパガンダのいずれをも超えて、芸術と社会／社会の芸術を、問い直す幾重もの動きが伏流し、1960 年代半ば以降、次第に顕在化していった。マス･コミュニケーションと大量消費の時代の芸術の可能性を問うたポップ・アートあるいはまたフルクサス等の展開から半世紀を経るなかで、芸術・文化のハイ＆ローの区別はあきらかにその自明性を失い、それにかわって、美や芸術の諸問題が社会総体の中に深く組み込まれ、その制作・享受・評価・存立自体までもが社会総体との関係性ぬきに考えることは困難であることは、今やほとんど自明となりつつある。デザインによる世界席巻、アート成立を問うこと自体を目的化したアート、ポストコロニアリズム的／ジェンダー論的／カルチュラル・スタディーズ的芸術史の問い直し、あるいは環境問題と向きあうエコロジカルアートやエコ・デザイン、さらには一方におけるアートプロジェクトと他方における「創造都市・創造産業」や大型国際展の隆盛、そして電子メディアとインターネットによるコミュニケーション・知覚システムの激変。これら相互に連関しあう多面的諸事態の波に、アートは無論のこと現代の「感性」文化の全体がさらされている。

更新される「感性」文化のなかで、芸術／アートは、なお存在する“権利”を有するか、有するとしたらそれは、かつての自律性の議論にかわるどのような議論を通して再定義されうるか。このような問いは全体として、現代感性文化および芸術と<公共性>の関係を前景化するであろう。たとえば、現代文化の中に新たな公共性の可能性を拓く営みとしてのアート、という具合に。あるいはまた、そのような公共性とは、果たしてアートをひとしなみに日常の営みの中に沈ませることとなってよいのか、という具合に。とりわけ、近年、世界各都市で、また日本各地で展開され、アートの新しい風景を創り出すに至っている各種の国際展やアートプロジェクトは、先鋭化されたいくつもの問いを提起している。

そのような問いの総体は、同時に、個々の諸事態（プラクティス実践）を踏まえた新しい総括的パースペクティブへの要求を内包している。その意味で、それは、美・芸術の自律性を論じてきた美学への挑戦であり、かつ新しい諸事態（プラクティス実践）の総体にパースペクティブを提示するものとしての美学の新たな挑戦ともなる。

（コーディネイター：長田謙一・田尻真理子・金子智太郎）